



●店先の風鈴が、涼しげな音色を響かせた（1日午後、川越市幸町で） ●おけに乗って川遊びを楽しむ子供たち（1日午後、熊谷市で）

## 6月 真夏の始まり 秩父35.3度・熊谷35度

1日の県内は前日に続いて気温が上昇し、秩父、熊谷の両市と鳩山町で今年初めて、最高気温が35度以上の猛暑日となった。昨年より1か月以上早い猛暑の到来に、涼感を求めるイベントなどが盛況となった。

JR熊谷駅近くの星川では、川遊びで涼むイベント「いいね！ 星川でクールシェア!!」が開かれた。涼しい場所を活用して夏を快適に過ごし、エネルギー消費削減を促す「クールシェ

ア」を広めようと、熊谷青年会議所などが開催した。

子供たちは、おけで川下りを楽しんだりしてイベントを満喫。熊谷市の主婦岡部佐和子さん(36)は「子どもたちも楽しそうだった。暑さもプラスにとらえたい」と笑顔だった。

川越市幸町の「荻野銅鐵店」では、店先に下げられた50個以上の風鈴が響かせる「リーン、リーン」という音に、蔵造りの街並みを訪れていた観光客らが

足を止め、つかの間の“涼”を楽しんだ。同店を訪れたフランス人男性は、トンボや魚などの形をした南部鉄器製の風鈴を興味深そうに観察。「風鈴はフランスにはないもので、涼しい気分になる」とさっそく買い求めていた。

◇

熊谷地方気象台によると、この日の最高気温は秩父市と鳩山町で35.3度、熊谷市で35度。全8か所の観測地点で今年の最高気温を更新した。読売新聞の午後8時の集計では、県内で熱中症とみられる症状で搬送された人は31人に上った。